

# 社友会だより

## 第 40 号

発行 センツウ社友会

住所 神奈川県横浜市港南区芹が谷 4-27-19

〒233-0006 大和田輝彦 内

編集者 大場省平

### \* 新年のご挨拶 \*

社友会会長 法安忠美

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、お健やかに新春をお迎えることとお喜び申し上げます。



昨年世間は、これまでとは違って賑やかな一年でありましたが、今年は、永年続いた閉塞状況が払拭されるようなよい年になることを期待してやみません。

我が社友会の活動全般も、昨年も申しあげました通り、包括的には、緩やかではありますが、活性化が進んでおると申し上げてよいのではないかと考えております。

本部・支部との連携も一層強まってきており、近年に見られなかった一体的組織となりつつあると云ってよいのではないのでしょうか。

昨年 4 月にお配りした、記念誌「センツウ社友会 25 年のあゆみ」により、これまでの社友会の歴史を総括致しましたが、お眼を通していただけたでしょうか。会員の皆様の今後に少しでもお役にたてばと念じております。

社友会の大きな事業の一つとなっております当会支援の「センツウ同窓の集い」も、昨年、5 回目となりましたが、全国各地で盛大に行われました。センツウ卒業生の「絆」が、確固なものとなりつつある証と考えております。

然しながら、課題もあります。会員増強、レク活動の活発化、会員の参加方策等々です。取り組んでおりますが、難しいです。皆様の知恵と力が要ります。

今年は、これ等の課題、懸案の改善に注力していきたいと考えております。新しいと考えたことが直ぐに古くなる現世の中ではありますが、強力なスタッフが揃っているこの時期に取り組まなければなりません。皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様にとりまして、今年も佳い年でありますようお祈り申し上げます。

### センツウ同窓の集い 全国で盛大に開催

平成 25 年 11 月 30 日(土)、全国各地で盛大に開催されました。尚、関西地区は、11 月 16 日に、東北地区は 11 月 29 日に、其々開催しております。

各地に於ける開催模様は、次の通りです。

#### 東北地区

平成 25 年 11 月 29 日(金) 18:00 から仙台市青葉区の牛タン焼肉店「焼助」にて、センツウ同窓の集いを開催しました。

当日は、遠方(盛岡)から、また、DS仙台中野店



時代のスタッフも参加され総勢 12 名となりました。

始めに、高橋新之助さんの乾杯により開宴、1 年振りとあって話が

弾み、酔いと話であったという間に予定の時間が過ぎ、元 DS 勤務の庄司浩子さんの中締めにて、一次会は無事お開きとなりました。



例年通り、二次会のカラオケ店にて歌とお酒で盛り上がり最高潮に達し、勢い余ってかそのまま三次会へと繰り出しました。



「レポーター佐藤健二さん」

#### 中央地区

平成 25 年 11 月 30 日(土) 12:00~東京都港区のシーサイドホテルに於いて 50 名が参加、盛大に実施されました。

司会進行役の鏡さんから、本日は、中央・中四九州・中部・で実施、関西は 11 月 16 日に、東北は 11 月 29 日に、其々実施しておる旨の報告があり、開宴となりました。

始めに乾杯を、山根さんをお願いし、壇上に進まれた山根さんから、「私も今年米寿を迎えて元氣

にしておりますが、大分年を取ったのではと思っておられると思います。

乾杯の前に一言お話し申し上げます。」と前置きされ、「NTT電友会(N



TTのOB会)があります。が、NTTの民営化により、無線関係の支部が無くなることでしたが、なんとか東京無線支部として残していただきました。

新規会員の増えることが無い中で、東京無線支部の活性化を図って行きたいと苦慮している。」とのお話があり、引き続き乾杯の音頭を取られました。

乾杯後は、杯を持った参加者が、各テーブルを囲み、暫らく歓談が続きました。





司会者から、この辺で皆様方からの近況報告をお願いしたい旨、アナウンスがあり、初めに濱中さんを指名されました。



壇上に進まれた濱中さんは、「皆様も、私の様に健康な生活を送り、長生きして下さいますようお願い致します。なお、本日は、同期の斉藤君を連れてきましたので挨拶させます。」

指名を受けた斉藤（茂）さんが、「私は、昭和45年の

入社で、49年に退職しました斉藤です。退社後、独りで製本業を始め今年で40年営んでいます。本日この様な席でお話出来ることを大変嬉しく思っています。是非、これからも宜しくお願いします。」と述べられました。



続いて、斉藤（和）さんが指名されました。斉藤さんは、「私は、平成7年に横浜支店に入社しました。



入社当時は、8号機の最後の年で2年目から収容替をやらせて頂きました。

去年の3月まで、中国のサービスセンターで船舶電話の部署に居りましたが、4月に国際赤坂の本社に来まして、収容替工事の手配等を担当しています。

私は日本船舶通信への入社を誇りに、これからも先輩達が築いてきた信頼と実績を引き継いで行きたいと思えます。」と述べられました。

近況報告が終わり、会場には、日本船舶通信時代の映像がスクリーンに投影されると、参加者が身を乗り出して見入っており、各テーブルでは、映像を見ながら話題に花が咲いたように歓談されていました。

暫らく歓談続き宴も終盤を迎える頃、司会者から法安社友会会長に、この際何か一言を、との求めがあり、会長は、「センツウ同窓の集いが、各地で年々盛大となって来ていることは、誠に喜ばしいことです。



この集いは、ご案内の通り、当時の会社創立記念日の時期に合わせて行われるもので表裏一体的なもの、つまり、記念日そのものです。同じ釜の飯を喰った者同志にとっては、とても大事な行事です。今日は、楽しいです。

これからも、皆で大事に、楽しく盛り上げて行きましょう。」と挨拶されました。



あつと言う間に予定時間が迫り、司会者、鏡さんから、「センツウ時代、小名浜営業所に居りました関係から3.11の被災状況を視てまいりましたが、造船所、電機屋さん等、全部潰れて見る影もありませんでした。

これからも、東北の復興に支援をして行きたい。」と心温まる報告がありました。

続いて中締めに移りました。

中締めは、昨年引き続き、「紅一点の川端」さんをお願いしました。

指名を受けた川端さんは、「この会が何時までも続いて行きますことを念願し一本で締めたいと思います。」と述べられ、一本で締めて、目出たくお開きとなりました。



「レポーター長谷川英夫さん」

## 中部地区

平成25年11月30日12:00時より、第5回センツウ同窓の集いを名古屋駅前の北京料理店「百楽」にて開催しました。



6月の下呂温泉旅行以来概ね6ヶ月振りの再会で、参加者は14名となりました。

冒頭、本田支部長の挨拶に続き奥田事務局長より、出席できなかった方から頂いた近況報告と、今後の活動計画の発表がありました。

今回は本田さんの喜寿のお祝いを兼ねており、皆様から祝福の拍手があがり、色紙に各自がお祝いの言葉を寄せ書きし、贈呈されました。



佐藤さんによる乾杯の音頭で開宴、お互いに喧騒の極みのように爆笑や積もる話の渦に花が咲き、予定の2時間が瞬時に過ぎてしまいました。

佐竹さんの締めで、次の再会を期してお開きとなりました。



「レポーター本田太作さん」



## 関西地区

今年度の「同窓の集い」は、5年目を重ねることから例年とは違う会場として、センツウ社で働く私達の生活を支えた「船」を舞台に選びました。

海上の気候を考えて、他の地域日程より早めの11月16日(土)に行くことにしました。



当日は、前日の雨模様から一転した素晴らしい海上クルージング日和になりました。

乗船すると既に沢山のバイキング料理が準備されていて、皆さんはまずは思い思いの食材を確保して空腹感を満たしたところから、この一年、或いは十数年振りの空白を埋める会話や、神戸の沖合から見る新たな発見等、記憶と思い出が絡み合った会話で盛り上がりました。

下船後、例年通りの二次会を開催、今回は新メンバも加わり楽しい会となりました。



「レポーター富田 昌さん」

## 中四国九州地区

中四国九州地区のセンツウ同窓の集いが平成25年11月30日(土)・北九州市門司区・門司港レトロ地区の三井俱樂部で開催されました。

会場の三井俱樂部は、門司港が大陸貿易で華やかに栄えた大正時代に三井物産が社交クラブとして建て、戦後は旧国鉄の所有となり門鉄会館として利用されてきましたが、門司港レトロにふさわしい大正時代の歴史建造物として門司港に移築、保存された国指定重要文化財です。



このような由緒ある三井俱樂部のレストランを貸し切りで開催されました。

出席者は総勢30名、当初は34名でしたが急用で来られなかった方が4名いて、とても残念でした。

今年も関東から今井さん、下平さん、中国から山口政太郎さん、松下さん、穴堀さん、大口さん、四国から濱本さん、三浦さん、別府から高橋豊さん、鹿児島から橋之口さんの10人がはるばる門司港に足を運んで頂いた。本当にありがたく感謝申し上げます。



乾杯は、センツウ九州支店長、最後の支店長を務められた下平さんの発声で高らかに開始されました。

一時は腹の虫に餌を与えるためか静かな会場も、やがて会場はあちらこちらで杯の酌み交わす声に沸き、輪ができて、ほのかに顔が赤くなってきたところに、幹事から「集いのし



おり」の紹介と欠席の方のメッセージの紹介がありました。

徐々に盛り上がりの中で、本日、初めてセンツウの集いに出席した3名の方(松下さん、大口さん、坂本さん)から順次登場願ってスピーチをお願いしました。また、今回はビデオ等の準備もなく、話題性もない中、どのように盛り上げていくか考えた末、サプライズを2つ準備しました。

当日、11月30日に誕生日(山口政太郎さん)の方が居ることが分かり、お祝いのケーキに沢山のローソクを灯し、年齢秘密のまま、ハッピーバースデーの歌を全員で合唱してお祝いをしました。また、ご夫婦ご出席の方で還暦をお迎えの中野さんをお祝い致しました。昔は定年退職と還暦はほぼ一致が通例でしたが近年は定年や労働年齢が延び、還暦のお祝いを一大事のようにしなくなりました。そこで集いの会では同じ釜の飯を食った仲、長く辛苦をともにした仲間とともにお祝いさせて頂きました。



幸いに、当初は還暦の方は男性1名と踏んでいたのですが、女性にも還暦の方が居るやもと、密かにお年を探るとなんと、奥様も還暦と云うではありませんか、幸いな事に女性用のちゃんちゃんこも準備していたので事なきを得て、このお祝いを





完了することが出来ました。お二人の感想は、「子供達にして貰わなくても十分還暦のお祝いをして頂いて嬉しいです。」とのこと。

この二つのサプライズを行いました。今年の還暦の方が「私は昨年還暦でしたがお祝いをして貰えませんでした。」との苦情を言われ言い訳ができませんでした。ただ昨年は準備が整わなくてごめんなさい。とか何とか言っているうちに、気が付けば予定時間を超過していつものように宴たけなわで、最後は橋之口さんの万歳一唱でお開きとなり、それぞれが久し振りの門司港の街に繰り出していきました。



「レポーター松崎繁行さん」

**25年秋季ゴルフコンペ開催  
優勝 沖本良平さん**

平成 25 年 11 月 14 日 (木) クリアビューCC に於いて恒例のゴルフコンペが開催されました。

当日はぽかぽか陽気に恵まれ、絶好のゴルフ日和の中、全員元気よく熱戦が繰り広げられました。

今回は、台風 26 号の影響で順延を余儀なくされたことに加え、腰痛等の体調不良による欠席者が多く、3 組 9 名参加の少々寂しいコンペとなりました。

グランドシニアのベテラン勢が揃った第 3 組の林さん、沖本さん、福田さんのパーティーが前回同様に日頃の実力を発揮し、沖本良平さんが優勝、林憲男さんが準優勝を獲得しました。

参加された方々と入賞された方は次のとおりです。

「参加者氏名 (スタート順・敬称略)」

- 1 組……阿部正一・山形剛士・足助 正
- 2 組……加藤恒男・濱田 治・菅原志郎
- 3 組……林 憲男・沖本良平・福田嘉信

「入賞された方 (敬称略)」

| 順位 | 氏名   | グロス | ハンディ | ネット | その他        |
|----|------|-----|------|-----|------------|
| 優勝 | 沖本良平 | 95  | 21   | 74  | DC×2       |
| 二位 | 林 憲男 | 91  | 16   | 75  | NP         |
| 三位 | 阿部正一 | 86  | 10   | 76  | BG, NP, 水平 |

「優勝された沖本さんの喜びの声」

今夏の猛暑で体調を崩し、コンペ当日の朝も体がふらつき、車の運転が心配で欠席も考えましたが、このゴルフコンペを逃すと皆さんとお会いする機会がないので、無理をして出かけました。

しかし、コースでは力が入らず、フェアウェイでのウットはボールが上がらず、やむなく 4I を使いましたが、アイアンでは飛距離が短くパートナーで飛ばし屋のベテラン・林さんと福田さんについていけず、苦戦の連続でした。

結果的には最終の 9 番ホール (P3) で約 4 メートルのバーディが決め手となり、前回の覇者・林さんを 1 打差で逆転しました。

優勝したものの、その要因は多くのハンディ (21) に助けられたもので、95 のグロスでは恥ずかしく、皆さんに申し訳ない気持ちです。

今回は体調を整えウッドを使えるように練習して臨みたいと思っております。なお、体調の悪いなかで、ドラコンを 2 個頂き、パット数が 30 (1.66) と久し振りに目標値をクリアしたので喜んでおります。

本日は、事務局の濱田さんのご尽力と、参加された皆さんに厚くお礼申し上げます。本当に有難うございました。

「事務局より」

今回もベテランが活躍されました。

今回は (春季大会) の開催は 26 年 5 月 14 日 (水) を予定しております。若手 (?) も頑張ってベテランに挑戦しましょう 計画ができましたら事前にご案内いたしますので、奮っての参加をお待ち申し上げます。

「レポーター濱田 治さん」



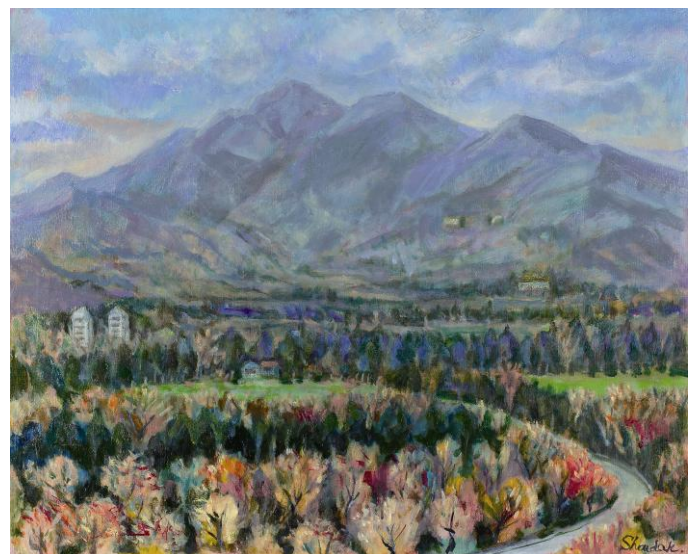
**油彩画 那須連峰秋景**

那須は、何かと縁がある土地で何度も訪れましたが、今まで山を描いたことはありませんでした。

この作品は、数年前の秋、家族で泊まったリンドウ湖畔の宿の窓からスケッチした那須五岳をもとにして描いた 15 号の油彩です。

10 月中旬、陽は傾き始め光は柔らかくなったが、薄暮までは未だ時間があり、色付いた樹々を識別する明るさは残っている時間帯でした。

「正田健一さん」



**お悔やみ**

平成 25 年 11 月 24 日 太田直熊 殿 享年 97 歳

平成 25 年 11 月 29 日 高雄久男 殿 享年 86 歳

謹んでご冥福をお祈りいたします。